

日本写真芸術専門学校

科目ガイド

2025

Ⅱ部 必修・選択科目

Ⅱ部 年 組 氏名：

はじめに

この科目ガイドには、日本写真芸術専門学校で開講される各授業の区分、対象、開講期、単位数、講師名、授業計画、授業内容、評価方法等の授業概要が掲載されています。

選択科目の履修計画を立てるときの資料として、また教室内外で学習を進める手がかりとして活用して下さい。

科目ガイド 目次

■Ⅱ部１年 必修科目・選択必修科目

p. 1	スタジオ演習	佐藤 和恵
p. 2	写真撮影基礎演習	五十嵐 太二
p. 3	写真表現基礎演習	馬場 智行・植田 真紗美
p. 4	画像処理Ⅰ	芳田 賢明
p. 5	現代写真論	調 文明
p. 6	写真科学	船生 望
p. 7	写真創作演習	馬場 智行
p. 8	暗室表現演習	松井 寛泰
p. 9	コマーシャル基礎ゼミ	イ キョンソン
p. 10	ポートレート基礎ゼミ	出水 恵利子
p. 11	ドキュメンタリー基礎ゼミ	鈴木 邦弘
p. 12	フォトクリエイティブ基礎ゼミ	馬場 智行

■ゼミ（２年次）

p. 13	コマーシャルフォトゼミ	赤坂 トモヒロ
p. 14	ファッションポートレートゼミ	倭田 宏樹
p. 15	フォトクリエイティブゼミ	倉持 正実
p. 16	ドキュメンタリーフォトゼミ	鈴木 邦弘

■必修科目・選択必修科目（２年次）

p. 17	画像処理Ⅱ	羽立 孝
p. 18	スタジオアドワーク	市川 森一
p. 19	ファッションポートレート	河野 鉄平
p. 20	フォトクリエイティブ演習	田 凱
p. 21	ムービー制作演習	栗林 武
p. 22	映像表現論	調 文明
p. 23	写真表現演習	柳本 史歩
p. 24	スタジオライティング	出水 恵利子

■特別科目

p. 25	特別WS／NPIポートフォリオコンペティション
p. 26	海外研修
p. 27	期末審査／卒業作品展／卒業作品集
p. 28	就職ガイダンス／卒進オリエンテーション

■認定科目

p. 29	技能検定／DTP検定／写真関連検定
p. 30	学外写真展／学外公募展／インターン

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名	スタジオ演習				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	佐藤 和恵				
授業概要	スタジオ演習ではプロを志す人が撮影において必要となる、基本的な光の種類やライティング・撮影までのプロセスを1年生で覚えなければならない基礎的な知識と技術を中心に、順序立てて学んでいきます。実習では撮影機材の種類から使い方までを年間を通じて学習し、自分自身の写真表現に結びつく、フレームワーク・ライティング方法・露光の調整・イメージ作りなどを実習を通して身に付けていきます。生徒一人一人が興味の持てる授業内容にし、個々の相談にも対応していきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	オリエンテーション	年間説明、カメラの使い方、カメラの種類		
	2	写真基礎①	撮影に必要な基礎的な知識の説明①		
	3	写真基礎②	撮影に必要な基礎的な知識の説明②		
	4	スタジオ機材の扱い方①	スタジオ撮影に使用する機材の種類と説明		
	5	スタジオ機材の扱い方②	大型ストロボの使い方		
	6	光について①	露出計を使用した露出の考え方		
	7	光について②	光の種類を知って、光をコントロールする①		
	8	光について③	光の種類を知って、光をコントロールする②		
	9	光について④	光の質感について①		
	10	光について⑤	光の質感について②		
	11	撮影環境を整える	撮影環境の整え方、テザー撮影について		
	12	商品撮影の種類①	商品撮影の種類とその方法①		
	13	商品撮影の種類②	商品撮影の種類とその方法②		
	14	商品撮影の種類③	商品撮影の種類とその方法③		
	15	前期のまとめ	前期のまとめ、スタジオ演習授業内テスト		
後期	1	イメージを表現する①	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編①		
	2	イメージを表現する②	シズル感の表現とイメージ構成 スイーツ編②		
	3	イメージを表現する③	朝ごはん編		
	4	クリップオンストロボ①	クリップオンストロボ 基礎編		
	5	クリップオンストロボ②	クリップオンストロボ 応用編		
	6	イメージを表現する④	化粧品編① 映り込み		
	7	イメージを表現する⑤	化粧品編② シズル		
	8	イメージを表現する⑥	靴編		
	9	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	10	合成を考えた撮影①	合成を前提とした撮影を考える		
	11	広告制作①	グループに分かれての広告制作①		
	12	広告制作②	グループに分かれての広告制作②		
	13	広告制作③	グループに分かれての広告制作③		
	14	広告制作④	グループに分かれての広告制作④		
	15	後期のまとめ	後期のまとめ、スタジオ演習 授業内テスト		
評価方法	各実習製作に於ける提出作品、理解力、積極性、授業態度による絶対評価				
テキスト 参考書					

科目名	写真撮影基礎演習		
開講期	前期	単位数	6
講師名	五十嵐 太二		
授業概要	写真を通して人に何かを伝えるには、被写体の状態を的確に捉え、最適な機材の選択と設定が必要になります。この授業は表現そのものではなく、自分が伝えたい内容表現するための基本的な撮影技術、カメラやレンズなど機材の特性を理解すること、そして将来、様々な分野に進むために不可欠となる技術的土台を作ることを目的とします。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	カメラの点検	オリエンテーション。カメラの点検法・実写
	2	カメラの仕組み	一眼レフの仕組みと特性・写真の三大失敗
	3	露出① 絞り	適正露出、絞りの表現効果、被写界深度
	4	露出② シャッター	シャッタースピードの効果、相反則
	5	露出③	EV、露出補正、ヒストグラムの見方
	6	フラッシュ①	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	7	フラッシュ②	同調速度、GN、調光、ストロボを使用した様々な撮影法
	8	画面構成①	構図、画面構成（アングル、ポジション、ディスタンス）
	9	画面構成②	レンズの効果・画角とパース・焦点距離、前期のまとめ
	10	作品講評	撮影技術の基礎を確認
	11	写真用品解説	フィルターの種類と使い方、三脚の使用法と選び方
	12	光源と色①	光の種類、ライティングポジション（順光、逆光、斜光etc）
	13	光源と色②	デジタルカメラの特性、WBの解説
	14	撮影マナー	撮影時のマナーやルール
	15	まとめ	不明点等をクリアにする
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、習熟度、課題作品、授業態度などを総合的に評価。		
テキスト 参考書	授業配布プリント		

科目名	写真表現基礎演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	馬場 智行・植田 真紗美		
授業概要	写真を撮る！という行為は、カメラというメカニカルな道具を使い、感性を伴った眼で見た事象を記録・定着させる作業です。写真表現には様々な技法があります。それがどのように表現に関わっていくのかを実習によって学ぶ授業です。他者に伝える意図・撮影の目的を明確にし、映像化する為の基礎を身につける。それがこの授業の柱です。 写真も身体表現です。たくさんシャッターを押して、たくさんプリントして、たくさん写真を観ることです。写真に費やした努力を、写真は裏切りません。体で覚えましょう。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	写真の主題	オリエンテーション/組み写真と単写真について/課題1『他者』発表
	2	カメラワーク	露出・ピント・WBを使った表現を知る/課題1講評
	3	カメラワーク	シャッタースピード・絞りをを使った表現を知る/課題1講評
	4	全体講評	課題1の合評/課題2『三社祭』発表（フレーム・アングル・ディスタンスを意識）
	5	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題2『三社祭』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題2『三社祭』
	8	全体講評	課題2『三社祭』
	9	講義	構図について/組み写真について
	10	レンズワーク	広角レンズ、望遠レンズを使った表現/課題3『我が町』発表
	11	中間講評	課題3『我が町』“現在”を5枚、“過去”を5枚で構成
	12	中間講評	課題3『我が町』
	13	全体講評	課題3のまとめ
	14	中間講評	前期末中間審査
	15	中間講評	前期末中間審査
後期	1	講義	/課題4発表
	2	中間講評	課題4
	3	中間講評	課題4
	4	全体講評	課題4のまとめ
	5	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	6	撮影実習	課題5『〇〇一日』屋外撮影を実施
	7	全体講評	課題5の合評
	8	全体講評	課題5の合評
	9	講義	/課題6発表
	10	中間講評	課題6
	11	中間講評	課題6
	12	全体講評	課題6のまとめ
	13	中間講評	進級審査課題中間審査
	14	中間講評	進級審査課題中間審査
	15	まとめ	進級審査について
評価方法	出席及び熱意 作品の完成度（写真のうまさだけでは評価しない）		
テキスト 参考書	図書室の写真集等		

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名		画像処理Ⅰ			
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	芳田 賢明				
授業概要	業界標準の画像処理ソフトウェアであるAdobe Photoshopを主に用い、写真家・フォトグラファーとして必要な、RAW現像～レタッチ～インクジェットプリントの基本を学びます。撮影データを自らプリントして仕上げていく作業を繰り返し行う中で、画像処理による画づくりの基本的な知識と技術の習得を目指します。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	写真制作の概要	ワークフロー、写真制作・画像処理の考え方／演習：Mac、Bridge、Photoshopの基本操作		
	2	作業環境を整える	作業環境、機材の選び方、モニターのキャリブレーション、カラー設定、データの管理、レイヤー／演習：写真のセレクト、ゴミ消し		
	3	プリントの概要を把握する	RAW現像やレタッチを考慮した撮影、プリンターについて、用紙について、いろいろなプリントの仕方／演習：プリントしてみる		
	4	デジタル画像を理解する	RAWとJPEGの違い、保存形式、圧縮、画像の仕組み（解像度・ピクセル深度）、階調、ヒストグラム		
	5	RAW現像に慣れ、画づくりを理解する	RAW現像の基本、RAW現像とレタッチの違い、色味・調子・質感、印象と視線、記憶色・忠実色／演習：RAW現像に慣れる		
	6		評価・設計・調整のサイクル／演習：ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	7		自己作品でRAW現像～プリントをする、JPEG撮って出しと比較する		
	8	色調補正に慣れる	加法混色・減法混色、色相・彩度・明度、トーンカーブの仕組み、色調補正の基本、調整レイヤー／演習：色調補正に慣れる		
	9		ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	10	選択範囲に慣れる	選択範囲の取り方・使いどころ／演習：選択操作に慣れる		
	11		選択範囲も使い、ワークシートを使いながら自己作品でRAW現像～レタッチ～プリントをする		
	12	作品を仕上げる	これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
後期	1	カラーマネジメントを理解する	カラーマネジメントシステムの考え方、仕組み、実践例、観察光源、ワークフローへの応用		
	2	表現を深める	いろいろなRAW現像ソフト／演習：Lightroomの基本操作、ペンタブレットの使い方、ペンタブレットに慣れる		
	3		RAW現像の基本補正以外の活用、モノクロ表現、Photoshopフィルターの活用、プリントの外注について、入稿データ／演習：実践		
	4		演習：自己作品を仕上げる		
	5		演習：自己作品を仕上げる		
	6	ポートレートのレタッチ	肌のレタッチ、質感／演習：実践		
	7		自己作品を仕上げる		
	8	画像合成の実践	同ポジションの合成、切り抜き合成／演習：実践		
	9		自己作品を仕上げる		
	10	画づくりを分析する	演習：好きな写真家の画づくりを分析・真似てみる		
	11	画像・プリントのみきわめ	講義：画像やプリントの不良・劣化のみきわめ／演習：仕上げ実践		
	12	作品を仕上げる	演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	13		演習：これまでの学びを踏まえて自由作品を仕上げる（随時質疑応答、講義）		
	14	質問・おさらい	講義・演習：質問内容に応じて		
	15	テスト	テスト：習得度の確認		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組み、作品の完成度を加味して評価します。				
テキスト参考書	適宜指示します。				

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部1年
科目名		現代写真論			
開講期		後期		単位数	3
講師名		調 文明			
授業概要		フランスの思想家ロラン・バルトが『明るい部屋』（1980年）のなかで写真における3つの実践として「撮ること」「撮られること」「眺めること」を挙げていますが、この3つに注目することは現代の写真表現を考えるうえで今なお高い有効性をもっています。撮ること＝写真家の意図や写真の技術革新、撮られること＝人物や出来事などの社会的・歴史的・文化的背景、眺めること＝写真の一般的な使用や鑑賞者の自己認識……。本授業ではよりよい理解のために実際の資料（写真集やドキュメンタリー映像、写真論関連の文献など）にも触れながら、ジャンルやトピックに分けて国内外の現代写真の概説を年代に沿って行っていきます。教科書は鳥原学著『教養としての写真全史』（筑摩書房、2021年）を用います。			
授業計画		回数	主題・目的	授業予定	
前期	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
後期	1	授業紹介	イントロダクション：現代写真論とは		
	2	写真技術	写真の起源		
	3	写真技術	描写の進化とメディアの複製性		
	4	写真技術	デジタルテクノロジーによるフラット化		
	5	肖像写真	写真と社会		
	6	肖像写真	記録と表現		
	7	技術と表現	スナップショット——写真と日常の瞬間		
	8	技術と表現	スナップショット——「決定的瞬間」以後の多様な表現		
	9	視覚文化	モダン・デザインと写真		
	10	記録写真	ジャーナリズムとプロパガンダ		
	11	記録写真	主観的なドキュメンタリー		
	12	記録写真	誰もが写真を撮り写真に写る時代における記録のあり方		
	13	広告写真	大量消費社会における視覚的訴求力		
	14	広告写真	音楽と写真の交叉		
	15	芸術写真	19世紀後半のピクトリアリズムから21世紀の現代写真まで		
評価方法		平常点（授業参加度とリアクションペーパー）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、2/3以上の出席をしていない場合は、単位修得不可。			
テキスト参考書		教科書：鳥原学『教養としての写真全史』（筑摩書房、2021年） *授業開始前にならず各自購入すること。			

科目名	写真科学		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	船生 望		
授業概要	写真の表現は感性に基づく主観的な要素を中心に展開されますが、知識に基づく客観的な要素も必要です。現在の写真システムは主観的な要素を支援するための十分なテクノロジーを備えています。しかし、このような高度化・自動化された環境の中でより深く写真と関わるためには、より一層の理論的な裏付け知識が必要になります。 そこで、本授業では、現在の写真システムの基礎となる写真技術の歴史的な変遷を辿り、写真のできるしくみや写真制作に用いられる機器や材料などの主要な事項について学習します。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明／講義	ガイダンス/写真技術の歴史的な変遷
	2	講義	写真のできるしくみ（銀塩写真・デジタル写真）
	3	講義	写真のデジタル
	4	講義	色と光・写真の色再現のしくみ
	5	講義	写真制作の主な機材
	6	講義	撮影のメカニズム
	7	講義	カメラ
	8	講義	写真レンズ
	9	講義	露出計
	10	講義	写真用人工光源
	11	講義	コンピュータと周辺機器・①
	12	講義	コンピュータと周辺機器・②
	13	まとめ	授業のまとめ
	14		
	15		
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	出席、授業内課題、期末テストをベースに、授業への取り組みを加味して評価します。		
テキスト 参考書	適宜指示します。		

科目名	写真創作演習		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	馬場 智行		
授業概要	この授業では前期を通して各々一つのテーマに基づく作品を制作してもらいます。それぞれのテーマに沿った写真を提出し、講評とディスカッションを行います。そこで得られた考えを元に各自新たに撮影し、それをまた提出してもらい、さらに講評とディスカッションを行います。これを毎週繰り返し、作品をビルドアップさせていきます。その過程で、表現方法、セレクトの方法、組み方、見方、言語化等を実践的に体験してもらいます。写真とは広く深い海のようなもので、その理解は容易に到達できるものではありませんが、実践的に訓練を積み上げていくことでなっていくことができます。この授業は写真表現における考える力と想像力を鍛え、これから始まる写真の道の導入として、それぞれにとってその下地や土台を体験の中から得ることを目的とします。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	オリエンテーション	授業内容の説明 各自の過去の作品を使って、ディスカッション
	2	企画発表	各自取り組むテーマの決定
	3	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	4	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	5	作品検討	3～5枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	6	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	7	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	8	作品検討	5～8枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	9	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	10	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	11	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	12	作品検討	8～10枚の各自のテーマに沿ったプリントを提出・作品検討
	13	課題提出	ポートフォリオ提出
	14		
	15		
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	課題提出、提出頻度、課題内容、出席回数		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定		

科目名	暗室表現演習		
開講期	前期	単位数	3
講師名	松井 寛泰		
授業概要	この授業はモノクロフィルムを使用した暗室作業を身近なものとし、今後の活動における写真表現の幅を広げることを目指します。写真の世界ではデジタルが一般的になりましたが、モノクロフィルムを使用した写真は現在でも写真表現の技法として多くの写真家が活用しています。そこでこの授業ではフィルム現像、プリント作業を中心に、伝統的な銀塩プリントを通して写真の基礎を学んでもらいます。最終的には一つのテーマで作品を制作します。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	授業の流れ 機材説明 オリジナルプリントとは
	2	講義	フィルム現像デモンストレーション/リールに巻く練習/機材
	3	現像	フィルム現像
	4	講義	プリントデモンストレーション/コンタクト/引き延ばし/機材
	5	プリント	コンタクトプリント
	6	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整1
	7	プリント	引き延ばしプリント/濃度とコントラスト調整2
	8	現像	フィルム現像
	9	プリント	焼き込み/覆い焼き
	10	プリント	プリント
	11	現像	フィルム現像
	12	プリント	プリント
	13	まとめ	作品提出
	14		
	15		
後期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法			
テキスト 参考書			

科目名	コマーシャル基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	イ キョンソン		
授業概要	画面構成とライティング、コマーシャルフォトの特性を学びます。 イメージ広告写真模写を中心に広告表現法を習得。 ● 照明機材及びライティング基礎知識と応用。 ● 商品写真の良し悪しを判断する力の養成。創造、発想イメージの定着化。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	テスト	絞り、シャッタースピード、機材の使い方理解度テスト
	2	Mirror Box	入射光、反射光を理解撮影
	3	課題提出	Mirror Box、Scrap Book, 自己紹介
	4	テスト撮影	模写ライティング確認
	5	Capture One	テザー撮影
	6	撮影	模写撮影
	7	テスト撮影	模写商品決め、撮影方法、ライティング確認
	8	模写撮影	切り抜き撮影
	9	予備日	切り抜き撮影
	10	課題提出	模写①②提出
	11	テスト撮影	模写アレンジカット、イメージ決め、ラフ提出
	12	撮影	撮影
	13	撮影	自由イメージカット①
	14	撮影	自由イメージカット②
	15	課題提出	作品講評
評価方法	出席15回(61点)10回以下点数なし / 課題提出(1/5点+α) / 授業態度・撮影準備(+,-α)		
テキスト 参考書	PDFファイル、プリント配布		

科目名	ポर्टレート基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	出水 恵利子		
授業概要	スタジオワークを基本とし、被写体への取り組み方や自分の撮っていききたいゼミや方向性などを明確にし、写真を撮る基本知識を高める事を目的とします。ライティングの基礎、セッティング等スタジオのワークフローを習得します。機材はストロボを使用。授業の内容にあわせて必ず自分のカメラ、露出計、メディアを持参して下さい。必要に応じて撮影被写体に必要な小物を各自で用意して下さい。必ず自分で露出を計り露出決定を行いピントを合わせて撮影に取り組んで下さい。課題は、授業の時間内スタジオで仕上げる。リモートで参加は、リモート時間ごとに課題を掲げます。リモート授業内で仕上げ、リモート授業時間内終了までに提出してください。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	授業説明と基礎	機材の基本的知識の確認。機材の使用、組み方の基本。
	2	基本ライティング	基礎ライティングの構築
	3	基礎ライティング	アンブレラを活用／基礎ライティングの構築
	4	基礎ライティング	バンクを活用／基礎ライティングの構築
	5	基礎ライティング	デュフューザーを活用／ライティングの構築
	6	背景のライティング	背景イメージライティング
	7	基礎ライティング	イメージライティング／白バック
	8	基礎ライティング	イメージライティング／黒バック
	9	テスト	イメージライティング・自由
	10	応用	全身ライティング1
	11	応用	全身ライティング2
	12	応用	全身ライティング撮影
	13	応用	作品研究
	14	応用	作品研究
	15	テスト	作品研究撮影／講評
評価方法	授業態度を基本とし理解度や出欠席の総合評価とします。※1回休むごとに（-3点）とします。		
テキスト 参考書	玄光社／ポर्टレイトライティング		

科目名	ドキュメンタリー基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	鈴木 邦弘		
授業概要	現在のドキュメンタリー写真は、ルポルタージュ写真（フォトジャーナリズム）だけではなく、写真の美しさだけ見ればまるでアート写真のような作品が沢山あります。実際、アートとドキュメンタリーが非常に接近し、その境界もあいまいになっています。しかし、そのテーマは社会性を意識したものが多く、複雑な現代の時代性をいかに撮り込むかと多くの写真家たちが悪戦苦闘しています。この授業では、前半5回の授業で1950年代から現在までの写真の大きな流れを写真集をみて学びます。その後、自分で決めたテーマを撮影してもらい、合評の時にテーマにそった制作途中の作品を提示し、作品に対する意見を内容と形式の両面から全員で検討し、そこでの意見を参考に再撮してもらいます。このようなことを繰り返し、最終的には15枚から20枚の作品を提出してください。成績は作品の点数で決定します。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など。
	2	写真集	1950年代 パブリックな視線からプライベートな視線へ
	3	写真集・発表	1960年代 コンテンポラリー、ニュードキュメンツ・テーマ発表
	4	写真集	1970年代 ニューカラー、ニューとポグラフィ、タイポロジーの写真家たち
	5	写真集	1980・90年代 メイキングフォト、プライベートフォトの写真家たち
	6	写真集	2000年代 ドキュメンタリー写真の現在
	7	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	8	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	9	合評	テーマにそった世咲く途中の作品を持参する。
	10	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	11	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	12	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	13	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	14	合評	テーマにそった制作途中の作品を持参する。
	15	作品審査	シリーズにした作品15から20枚を提出すること（完成した作品）採点を行う
評価方法	授業の提出作品の採点の結果を評価とする。出席状況も考慮します。		
テキスト 参考書			

科目名	フォトクリエイティブ基礎ゼミ		
開講期	後期	単位数	3
講師名	馬場 智行		
授業概要	後期全15回の授業を通して、一つのテーマに基づき作品を制作してもらいます。前期からテーマのある人はそれを引き継ぎ作成を始め、テーマのない人は取り組むテーマの設定から始めます。“何を、何時、どのように撮るべきか”、“どのようなコンセプトを必要とするか”、毎週の講評・ディスカッションを通して検討し、それに基づき制作を進めていきます。また、そのディスカッションを通して自身と作品との関係性を探っていき、作品の言語化についても練習していきます。この授業はこれからの作品制作における基礎的な力を実践的に身に付けていくことと、自身の作品についてしっかりと説明出来るようになることを目標とします。写真の表現方法、どのような言葉で語るべきか、これらの選択肢は数多くあります。その多くある選択肢の中から何を選択していくべきなのか、その基準をそれぞれに自身の内に構築していくことを目指します。□		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
後期	1	テーマの模索と検討	過去の作品を基に後期に取り組むテーマを検討
	2	作品検討	テーマに沿った作品を持ち寄り考察
	3	作品検討	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察
	4	作品検討	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察
	5	作品検討 文章化	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 言語
	6	作品検討 文章化	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 文章
	7	作品検討 ステートメントの考察	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 効果的なステートメントの考察□
	8	作品検討 見せ方を考える	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 効果的な見せ方の考察
	9	作品検討 ステートメントの考察	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 ステートメントの考察□
	10	作品検討 見せ方を考える	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 見せ方の考察 2
	11	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 1
	12	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 2
	13	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 3
	14	作品検討 編集	前回の考察を基に進展した作品をさらに考察 編集の考察 4
	15	まとめ	これまでのまとめ
評価方法	出席及び課題提出、授業中の作品提示回数で判断□		
テキスト 参考書	必要に応じて随時指定します		

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	コマーシャルフォトゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	赤坂 トモヒロ				
授業概要	このゼミでは、これまで学んできた商品撮影の技術・知識をより深めるとともに、卒業作品展や卒業後を見据えたポートフォリオ制作など、学生生活の集大成としての作品作りを行っていきます。前期は与えられた課題を精密にこなしていくことを中心に進め、後期は学生自らがテーマを設定して作品を撮っていくことを中心にしつつ、作品に対して講師から与えられる課題をクリアしていくことで完成度を高め、「ディレクターやクライアントのオーダーに応える」という実践を想定した内容で進めます。各回ごとにレタッチや合成を行なった画像を翌週の授業内で提出し、個別に講評を行います。ただし、学生の習熟度や技術レベルに応じて、授業の進め方・内容は柔軟に変えていく予定です。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業内容の説明	オリエン、講師の用意した商品の撮影を通じて広告写真の基本的な考え方を学ぶ。		
	2	課題撮影①	前年度の復習を兼ねて基本的な切り抜き撮影を行う		
	3				
	4				
	5	課題撮影②	講師の提示する課題作品を模写する		
	6				
	7				
	8	課題撮影③	講師の提示する課題作品を模写する		
	9				
	10				
	11	課題撮影④	講師の提示する課題作品を模写する		
	12				
	13				
	14	課題撮影⑤	講師の提示する課題作品を模写する		
	15				
16					
後期	1	作品撮り①	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	2				
	3				
	4	作品撮り②	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	5				
	6				
	7	作品撮り③	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	8				
	9				
	10	作品撮り④	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	11				
	12				
	13	作品撮り⑤	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する		
	14				
	15				
16	作品撮り⑥	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する			
17					
18					
19	作品撮り⑦	各自が自由にテーマを設定し作品を制作する			
20					
21					
評価方法	出席状況および課題の提出状況等				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	ファッションポートレートゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	倭田 宏樹				
授業概要	ファッションフォトグラファーに求められるものは技術や知識も大切ですが、独創性と協調性です。 既成概念に捉われず、流行を組み上げ、独自のセンスを築く事はこれからのベースであり、道しるべでもあります。 『学ぶ』からより『実践』『作品制作』にベースを移行し、授業では主にテーマに沿って独自の感性を形にしていきます。他の生徒達と同じモデルで同じテーマを元に撮影していきます。撮影後は皆んなで写真を展示し、皆んなで評価をつけます。己の形に導き、創り上げていく事が目標です。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	授業内容説明		
	2	授業	Capture One 講習		
	3	照明授業	ライティング授業 1灯ライトのバリエーション		
	4	照明授業	ライティング授業 色表現		
	5	授業	次回撮影プラン制作		
	6	撮影	課題テーマ撮影『B/W』1		
	7	撮影	課題テーマ撮影『B/W』2		
	8	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	9	撮影	課題テーマ撮影『street』1		
	10	撮影	課題テーマ撮影『street』2		
	11	照明授業	ライティング授業 拡散光		
	12	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	13	撮影	課題テーマ撮影『ennui』1		
	14	撮影	課題テーマ撮影『ennui』2		
	15	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
後期	1	撮影	テーマ撮影『組写真』1		
	2	撮影	テーマ撮影『組写真』2		
	3	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	4	撮影	テーマ撮影『elegant』1		
	5	撮影	テーマ撮影『elegant』2		
	6	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	7	撮影	テーマ撮影『music』1		
	8	撮影	テーマ撮影『music』2		
	9	合評、検討	前回の撮影合評、次回撮影プラン制作		
	10	撮影	テーマ撮影『minimal』1		
	11	撮影	テーマ撮影『minimal』2		
	12	検討	次回撮影プラン制作、卒業審査の経過提出		
	13	撮影	テーマ撮影『own style』1		
	14	経過報告	テーマ撮影『own style』2		
	15	総括	前回の撮影合評一年の総括		
評価方法	出席、授業態度、表現力、テーマ提出物				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	フォトクリエイティブゼミ				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	倉持 正実				
授業概要	ゼミの目標は『学生時代の代表作』といえる写真を残すことです。それらの作品は、卒業後の創作活動の原点にも成り得るのです。各自が、最も関心のある事柄を年間テーマとして設定して下さい。テーマ撮影を進めていく上でどんな考え方・撮影方法が適切なのかを学生相互の講評（合評）のなかで模索していく授業です。 成果としての作品は期末にポートフォリオとして残します。毎回プレゼンテーション（作品提示）をすることを考えて下さい。このゼミが、クリエイト（創作）していくことを与えてくれるものではありません。受講生一人一人の行動が作品を創り出していくのです！				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	オリエンテーション（授業説明）課題提示1『食』		
	2	講評	合評（1年次作品を中心に）メインテーマの設定		
	3		合評『食』課題提示2『ファッション』		
	4	撮影実習1	機材の復習・再確認（ストロボ等）		
	5	講評	合評『ファッション』		
	6	撮影実習2	都市風景（Phase Oneでの撮影）		
	7	講評	合評（各自のテーマに即して）サブテーマの設定		
	8				
	9	作品鑑賞	適宜		
	10	講評	各自のテーマをプレゼンテーション（中間考査を考慮して）		
	11		合評（各自のテーマに即して）		
	12				
	13	実習	ポートフォリオ（BOOK）の制作		
	14	講評	夏期休暇課題に即して		
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）完成		
後期	1	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	2				
	3	撮影実習3,4	模倣から1、2（それぞれのテーマに対して別の方法論を疑似体験する）		
	4				
	5	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	6				
	7	作品鑑賞	話題の写真展・写真集から		
	8	講評	合評（各自のテーマに即して）		
	9				
	10	卒展実習1～5	卒展構成（タイトル・コンセプトを文章化する）		
	11		卒展レイアウト		
	12				
	13				
	14		作品集編集		
	15	まとめ	ポートフォリオ（BOOK）最終型の完成		
評価方法	出席および熱意 作品の到達度（技術的な写真のうまさだけでは評価しない）				
テキスト参考書	適宜（図書室の写真集等）				

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	ドキュメンタリーフォトゼミ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	鈴木 邦弘				
授業概要	ドキュメンタリーの写真作品とは、社会（人間の営む共同体）を対象にした写真群です。そして、その社会を写真家がどう理解したか（理解できないか）を表現したものが作品です。その範囲は非常に広く、深い。作品作りは常に他者（人間だけでなく自然なども含む）を相手にします。そこには自分探しではなく、自分作りがあるだけです。つまり、作品作りとは他者を通して自分自身を作ること（だからこそ自分自身が問われること）なのです。授業には真剣に取り組んで下さい。このようなことを前提に、自分で年間テーマを決め、1年間かけて作品を制作します。授業ではそれぞれの作品を合評（学生全員と講師で作品検討をすること）し、問題点を改善し再取材撮影を行い、また合評を行います。これらを繰り返し、最終的にはシリーズにした作品30枚以上を提出してもらいます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業説明	授業内容、授業予定、テーマ相談など		
	2	合評	合評はテーマ内容にもよるので、順番などを1回目の授業で具体的に決める		
	3	合評	デジタル、フィルム、フォーマットなどは自由		
	4	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由		
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	作品審査	シリーズにした15枚の作品を提出する（年間テーマ30枚以上の作品の前期分）採点を行う		
後期	1	合評	各自提出の際は必ず作品を持参すること 枚数は自由		
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15	作品審査	シリーズにした作品30枚以上を提出すること（完成した作品）採点を行う		
評価方法	出席状況および課題の提出状況等				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年
科目名	画像処理Ⅱ				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	羽立 孝				
授業概要	”イメージ”はコミュニケーションの一つです。”イメージ”を具現化し他者を介し昇華していく上で、デジタル写真をレタッチしていくことはとても重要なことになっています。個々の目的のイメージにより、その必要十分性は変化していきますがそれらの技術を幅広く習得し、またイメージ作成にあたり必要な技術を取捨選択し、最善の結果を得られるイメージづくりができることを目標とします。 それぞれの今後の写真への取り組みへの明確な目標、また課題を持ち、授業に望んでください。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	概要	ペンタブレット・Bridge		
	2	RAW現像	ヒストグラム、情報		
	3	テザー撮影	SONY、CANON、NIKON		
	4	Photoshop	レイヤーの仕組み(修復ブラシ・コピースタンプ)		
	5	選択範囲	選択範囲およびマスクの概要		
	6	パス①	パスの概要		
	7	パス②	パスの選択、使い方		
	8	パス③	パスを組み合わせる使う		
	9	選択範囲	色		
	10	選択範囲	輝度		
	11	チャンネル	小テスト		
	12	トーンカーブ①	ブラシ		
	13	トーンカーブ②	ブラシ&情報		
	14	テスト	前期内容		
	15	回答			
後期	1	前期の復習	確認および補足		
	2	スマートオブジェクト	概要(RAW)		
	3	スマートオブジェクト	変形		
	4	スマートオブジェクト	フィルター		
	5	スマートオブジェクト	ゆがみ		
	6	スマートオブジェクト	小テスト		
	7	スマートオブジェクト	背景延ばし		
	8	描画モード	スクリーン		
	9	描画モード	乗算		
	10	描画モード	乗算		
	11	描画モード	乗算		
	12	描画モード	オーバーレイ		
	13	描画モード	オーバーレイ&カラー		
	14	テスト	後期内容		
	15	回答			
評価方法					
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年 コマーシャルフォトゼミ	
科目名	スタジオアドワーク					
開講期	前後期		単位数	6		
講師名	市川 森一					
授業概要	前期は、物撮りを通して、スタジオライティングの基本的な考え方を学びます。1年生でやってきたことから更に踏み込んで、細部にまでこだわっていきます。 後期は、人物のライティングを通して、自由な発想で考えることの大切さを学びます。王道に縛られず、今までに見たことのないような君たちオリジナルの表現を見つけることが目標です。					
授業計画	回数	主題・目的	授業予定			
前期	1	授業の概要	年間授業計画、授業の目的について、スタジオ機材の使い方			
	2	切り抜き	切り抜きについて 缶を被写体に、メインライトとハイライトを理解する。			
	3					
	4					
	5					
	6		切り抜き	合成前提の撮影について photoshop の使い方も含めて、合成のやり方を理解する		
	7					
	8					
	9					
	10		まとめ	前期内容の復習		
	11					
	12					
	13					
	14	まとめ	前期内容の復習			
	15	まとめ	前期内容の復習			
後期	1	模写	プロの写真を真似る 各自がいいと思った写真を参考にして、同じライティングを再現する 被写体は人物の予定			
	2					
	3					
	4	自然光再現	自然光を再現する 各自が外で撮影してきた光の写真を参考にして、スタジオでライティングを作ってみる			
	5					
	6					
	7	写真以外を参考に	絵画・映画・アニメ等、写真以外の表現を参考にして、ライティングを作ってみる			
	8					
	9					
	10	色彩から考える	色の観点から、画作りについて考える			
	11					
	12	場所を活かす	スタジオ以外の場所で、場を活かしたライティングを考える			
	13					
	14	動きを考える	時間の観点から、写真表現の可能性を考える			
	15					
評価方法	出席状況、課題、授業態度等					
テキスト 参考書						

2025		区分	必修	対象	Ⅱ 部2年 ファッションポートレートゼミ
科目名	ファッションポートレート				
開講期	前後期		単位数	6	
講師名	河野 鉄平				
授業概要	ポートレートライティングで大事なことは、照射される光の状況をしっかり把握し認識しながら光を組み上げていくことに他なりません。その上で、被写体である生身の人間としっかり対峙し撮影に臨み、表現していきます。ライティングで用いるアタッチメントは筆先です。それぞれにどのような描き方ができるのか、理解しないことにはうまく光を使って描くことはできません。授業ではアタッチメントを利用しながら、ライティングを行う上での心構えや基礎的なテクニック、そして実践的なテクニックを習得していきます。プロモデルの撮影は前後期で2回ずつ、講評と振り返りを含めて行います。授業ではカメラ、レンズ、露出計、メディアを持参ください。授業内容はクラスのスキルに合わせて変更することがあります。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	授業説明	自己紹介 ポートレートライティングの概要/標準ズームリフレクターの効果		
	2	基礎1	角度、高さ、距離を踏まえたポートレートライティングの基礎、ソフトボックス概要		
	3	基礎2	アンブレラの種類と正しい使い方		
	4	基礎3	オパライトを使ったライティング		
	5	基礎4	バック飛ばしのバリエーション（半身）		
	6	基礎5	バック飛ばしのバリエーション（全身）		
	7	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	8	モデル撮影①	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
	9	作品講評	モデル撮影講評/カラーバック紙の効果		
	10	基礎6	トップライトを組み合わせたライティング		
	11	基礎7	リムライト・逆光を利用したライティング		
	12	基礎8	紗幕を組み合わせたライティング		
	13	基礎9	硬い光で撮るライティング		
	14	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	15	モデル撮影②	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
後期	1	作品講評	モデル撮影講評/前期の復習		
	2	応用1	シャドウを演出する仕組み		
	3	応用2	シャドウを作るライティング		
	4	応用3	ピンスポットを使ったライティング		
	5	応用4	カラーフィルターを使ったライティング①		
	6	応用5	カラーフィルターを使ったライティング②		
	7	応用6	カラーフィルターを使ったライティング⑥		
	8	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備		
	9	モデル撮影③	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影		
	10	応用7	日中シンクロの基本（1灯ライティング）		
	11	応用8	ハイスピードシンクロ撮影		
	12	応用9	カラーフィルターを組み合わせた日中シンクロ		
	13	テスト撮影	これまでの習得事項を踏まえたモデル撮影のための準備□		
	14	モデル撮影④	屋外での日中シンクロ		
	15	作品講評	モデル撮影講評/一年のまとめ		
評価方法	出席、課題を総合的に評価				
テキスト 参考書					

2025		区分	必修	対象	Ⅱ部2年 フォトクリエイティブゼミ
科目名	フォトクリエイティブ演習				
開講期	前後期		単位数	3	
講師名	田 凱				
授業概要	この授業では、写真を研究するという視点から、写真の表現と技法を学んでいきます。写真表現の形式を習うよりも、勉強、研究することで自分自身の内面を知り、外面としての社会とどう関わるかを学習し、自分の作品づくりの根幹を形成していきます。 実際には、写真に写りこんでいる「現実」とを捉え、そこから写真というシステム構造が出来上がっていることを体験していきます。次に、「現実」という要素が写り込んだ写真について、そこから見えてくる思いや感じたことを文章化し、視覚認知を向上していきます。写真を作る主観的な側面と、写真を見て感想を書く客観的な側面とを合わせて学ぶことで、自分自身の写真的な感覚と意識をみがいていきます。				
授業計画	回数	主題・目的	授業予定		
前期	1	説明	授業の内容説明 個人面談		
	2	講義 ディスカッション 講評	課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	3		課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	4		課題① 経過確認・ブラッシュアップ		
	5		課題① 講評・評価／次回課題発表		
	6		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	7		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	8		課題② 経過確認・ブラッシュアップ		
	9		課題② 講評・評価／次回課題発表		
	10		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	11		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	12		課題③ 経過確認・ブラッシュアップ		
	13		課題③ 講評・評価／次回課題発表		
	14		前期最終課題(課題④)		
	15	まとめ	前期最終課題(課題④)		
後期	1	説明	授業の内容説明 個人面談		
	2	講義 ディスカッション 講評	課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	3		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	4		課題⑤ 経過確認・ブラッシュアップ		
	5		課題⑤ 講評・評価／次回課題発表		
	6		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	7		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	8		課題⑥ 経過確認・ブラッシュアップ		
	9		課題⑥ 講評・評価／次回課題発表		
	10		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	11		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	12		課題⑦ 経過確認・ブラッシュアップ		
	13		課題⑦ 講評・評価／次回課題発表		
	14		後期最終課題(課題⑧)		
	15	まとめ	後期最終課題(課題⑧)		
評価方法	出席回数を重視し、課題、レポートの提出回数を評価の基準にします				
テキスト 参考書	適宜指示します。				

科目名	ムービー制作演習		
開講期	前後期		単位数
講師名	栗林 武		
授業概要	動画制作の基礎を学ぶ。 編集ソフトの基本的な使い方からAfterEffectsを使った、映像効果・簡単なアニメーションまでを1年を通して学んでいきます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	説明	授業内容説明・映像概要
	2	動画とは	動画の知識・成り立ちなど
	3	実習	動画撮影の方法
	4		取り込みと動画編集の流れ
	5		Premiere Pro基礎（エフェクトやトランジションについて）
	6		Premiere Pro基礎（ムービー書き出し等）
	7		Premiere Pro基礎（静止画のモーショントラッキングについて）
	8		Premiere Pro基礎（簡単なタイトル作成）
	9	課題1	自分の写真で作品集動画を作る
	10		提出
	11		絵コンテの説明
	12		街紹介動画の説明・準備
	13	課題2	街紹介動画を作る
	14		
	15		提出
後期	1	実習	イラストレーター基礎
	2		〃
	3		〃
	4	課題3	名刺作成
	5		提出
	6	実習	AE基礎（サンプル動画の作成）
	7		〃
	8		〃
	9		〃
	10	課題4	CMのタイトル制作
	11		CM制作
	12		
	13		
	14		提出
	15	予備日	
評価方法	提出された課題の完成度と授業出席数		
テキスト 参考書			

科目名	映像表現論		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	調 文明		
授業概要	洞窟壁画が示すように、映像は文字よりも先に表現のメディアとして登場し、多彩な技術革新を経ながら今日にいたるまで様々な事を外部化し後世に伝えてきました。そこで、本講義では映像の起源から端を発し、主に美術と写真のつながりを中心として、ピクトリアリズム、モダニズム、戦後美術、現代美術というおおまかな時代区分にしたがいながら、各時代の映像表現を詳細に考察していくことにします。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	授業紹介	イントロダクション
	2	前史	映像の起源
	3	前史+ワークショップ	光学機器によるイメージメイキング
	4	歴史概説	写真技術小史
	5	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅰ
	6	ピクトリアリズム	世紀転換期のピクトリアリズムにおける写真と絵画Ⅱ
	7	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅰ：未来派とフォト・ディナミズム
	8	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅱ：ニューヨーク・ダダ（マルセル・デュシャン）とレディメイド
	9	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅲ：ベルリン・ダダとフォト・モンタージュ
	10	ワークショップ	フォト・モンタージュを制作する
	11	モダニズム	モダニズムにおける芸術表現Ⅳ：シュルレアリスムとオートマティスム
	12	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおして20世紀美術を知る
	13	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅰ
	14	モダニズム	20世紀のアメリカ近代美術Ⅱ
	15		まとめと振り返り
後期	1	歴史概説	複製技術小史
	2	歴史概説	イズムからアートへ：20世紀美術と複製技術
	3	戦後美術	戦後美術をたどる：ポップアート
	4	映像資料	ドキュメンタリー映画をとおしてアンディ・ウォーホルを知る
	5	戦後美術	戦後美術をたどる：ミニマルアート
	6	戦後美術	戦後美術をたどる：コンセプチュアルアート
	7	ワークショップ	コンセプチュアルアートに基づいたアーティストブックを制作する
	8	映像資料	『ハープ&ドロシー』をとおして現代美術を知る
	9	現代美術	現代美術と写真：ファウンド・フォトを用いた表現
	10	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅠ
	11	現代美術	現代美術と写真：セルフ・ポートレイトについてⅡ
	12	ワークショップ	ファウンド・フォトを用いたアーティストブックを制作する
	13	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅰ
	14	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅱ
	15	サブカルチャー	サブカルチャーと写真Ⅲ
評価方法	平常点（出席日数や授業参加度など）と期末レポート（もしくは授業内課題）の総合評価。ただし、授業内課題はすべて提出していることが成績評価の前提条件となります。		
テキスト 参考書	参考文献は授業で適宜紹介します。		

科目名	写真表現演習		
開講期	前後期	単位数	6
講師名	柳本 史歩		
授業概要	今授業ではこれまで習得した技術を生かし、作品づくりや関心の幅を広げてゆくことを目的とします。 撮影技術は日々進歩をしています。誰でもがある程度綺麗に撮影することができ、またプリントすることが出来るようになりました。昨今社会で求められているスキルは撮影技術の向上だけではなく、そうした機材を使って何を撮るかといった部分であると思います。これは作家活動とは離れている分野でも等しく求められる要素です。 今授業では作品づくりを短期的に繰り返し、自分の本質を探してゆく作業を行います。課題を通し、写真を見ることや見せることへの楽しみを再確認してゆくことを試みます。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1	ガイダンス	ガイダンス 後期作品づくりの解説と進行について
	2	講義	ポートフォリオ作成の進行確認
	3	実習	第1回フィールドワーク
	4	実習	第1回フィールドワークの報告と成果確認
	5	実習	第2回フィールドワーク
	6	実習	第2回フィールドワークの報告と成果確認
	7	実習	後期作品の中間報告
	8	実習	後期作品の中間報告
	9	実習	第3回フィールドワーク
	10	実習	第3回フィールドワークの報告と成果確認
	11	実習	第4回フィールドワーク
	12	実習	第4回フィールドワークの報告と成果確認
	13	実習	ポートフォリオの作成
	14	実習	ポートフォリオの作成
	15	まとめ	ポートフォリオの発表とまとめ
後期	1	ガイダンス	ガイダンス ポートフォリオについて
	2	講義	第1回課題_1st作品制作について 撮影の計画作成
	3	実習	第1回課題_1st作品制作について 作品制作
	4	実習	第1回課題_1st作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	5	実習	第1回課題の1st作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ
	6	実習	第2回課題_2nd作品制作について ポートフォリオについて
	7	実習	第2回課題_2nd作品制作について 作品制作
	8	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	9	実習	第2回課題_2nd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	10	実習	第2回課題_2nd作品制作について 講評と次回撮影の打ち合わせ
	11	実習	第3回課題_3rd作品制作について 作品制作
	12	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	13	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	14	実習	第3回課題_3rd作品制作について 前回授業の結果報告と作品制作
	15	まとめ	第3回課題_発表 前期のまとめ
評価方法	出席と課題提出数に準じます。		
テキスト 参考書	その都度紹介します。		

科目名	スタジオライティング		
開講期	前後期	単位数	3
講師名	出水 恵利子		
授業概要	光の方向性、感性を表現するための、技術力を磨くことを目的とする。画像処理等で仕上げず、撮影力を身につける。光の考え方、基本ライトポジション、機材の活用方法など。人数によって、グループ分けをし、班ごとのスタジオ演習となる。課題の理解度が低い場合は、授業計画表とは異なり、同じことを何度も演習いたします。課題は、授業の時間内スタジオで仕上げること。		
授業計画	回数	主題・目的	授業予定
前期	1		機材の使用方法・セッティングの基礎の確認
	2		テーブルトップ・ライトポジション（ボール・白い石鹼・卵）
	3		白バック／白い被写体／フォーク／ヒストグラムの確認・写り込み
	4		黒バック／黒い被写体・フォーク／ヒストグラムの確認・写り込み
	5		カトラリー・イメージ
	6		缶・シルエット
	7		缶・切り抜き
	8		缶撮影イメージ
	9		透過光撮影 コップ 写り込み、エッジの確認
	10		透過光撮影 ペットボトル切り抜き
	11		透過光ウィスキーボトルイメージ撮影
	12		透過光ビール 泡
	13		透過光イメージ撮影 透過物
	14		透過光イメージ撮影 透過物 花
	15		写り込みを活用したイメージ撮影・課題提出
後期	1		三面見せ 菓子箱・ティッシュボックス 切り抜き
	2		三面見せ 菓子箱・ティッシュボックス イメージ
	3		椅子・傘 大きい被写体撮影
	4		パン撮影
	5		パン撮影イメージ
	6		ケーキ撮影
	7		ケーキ撮影イメージ
	8		自由食材イメージ撮影
	9		革靴 黒バック
	10		革靴 背景自由イメージ撮影
	11		作品研究
	12		作品研究
	13		時計 課題未提出・再殺指導 再撮影
	14		時計 課題未提出・再殺指導 再撮影
	15		課題作品発表／課題提出／自由撮影
評価方法	授業採点方法は、課題提出と出欠席です。欠席1回につきマイナス3点とします		
テキスト 参考書			

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	特別ワークショップ			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	本校講師・招聘講師			
授業概要	時代を象徴する国内外の写真家、業界で注目されているプロカメラマン、新進気鋭のフォトグラファーなどをお招きします。オリジナル作品の本人による解説や出席者の作品講評やワークショップなど、学生自身の創作意欲を高めます。			
評価方法	出席			
備考	招聘講師との日程調整が確定次第、掲示にて発表。学外のギャラリー等でも実施します			

2025		区分	必修	対象	全学年
科目名	NPIポートフォリオコンペティション				
開講期	後期	単位数	※		
講師名	本校講師				
授業概要	学生が自主制作したポートフォリオから最優秀賞や優秀賞、審査員賞などを選出するコンペティションです。制作を通してポートフォリオの構成や表現方法を学び、客観的な評価を受けることで自分の作品に対する理解力を深めます。				
評価方法	課題提出、内容				
備考					

2025		区分	必修	対象	全学年
科目名	海外研修：アルル・パリ／イタリア、台湾、フランス周遊等				
開講期	前期	単位数	※		
講師名	—				
授業概要	学校指定の研修は、各国から1カ国を選択します。 単に海外へ行く旅行ではなく、現地の人々や異文化と撮影取材で直接触れることで国際的な視野を磨くことができる研修合宿です。 【フランス：アルル、パリ研修】（3年制 総合2年生および希望者）x 世界から最新の写真表現や著名な写真家の作品が集まる「アルル国際写真祭」に参加します。世界の写真表現の現在を知ることが目的です。また、パリでは、ルーブル美術館や欧州写真美術館等の見学を行い、美術的、文化的な素養を養う機会となる研修旅行です。 【他研修】（2年制2年生および希望者） 海外の文化を体感する研修です。豊かな自然や世界遺産など、様々な撮影スポットを訪れ、各国の歴史、文化、生活にふれることができます。				
評価方法					
備考	出発前に研修指導あり。研修先は状況により変更する場合があります。				

2025		区分	必修	対象	I 部2年FW
科目名	2年次海外フィールドワーク研修 マレーシア				
開講期	後期		単位数	※	
講師名	鈴木邦弘／飯塚明夫				
授業概要	海外フィールドワークでも訪れる国のひとつであるマレーシアにおける実践的な研修合宿です。3年次の海外フィールドワークを想定し、企画立案や行動計画をはじめ実際にアジアでの取材撮影を経験することで長期取材撮影の予行演習とします。				
評価方法	出席、課題				
備考	詳細はフィールドワークの授業内にて行います				

2025	区分	必修	対象	全学年
科目名	期末・進級・卒業審査			
開講期	前後期末	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	各学期末に半年間の学習成果を確認する審査を実施します。後期末の審査は、各年次に合わせて進級審査・卒業審査となります。1年次は共通課題、2～3年次はゼミ課題になります。			
評価方法	出席、課題内容			
備考	課題は掲示発表され、テーマや規定枚数は各学期・学年・ゼミ等により異なります。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度生
科目名	卒業作品展			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	卒業作品展は、在学中に制作した作品制作の成果を学外において発表するものです。公の場において作品を公開し、展示方法、設営などの経験を通じて作品のプレゼンテーションについての見識を深めます。			
評価方法	作品内容、展示設営、写真展運営			
備考	何れも会場の設営から解体、受付まで担当します。			

2025	区分	必修	対象	I / II 部 卒業年度 生
科目名	卒業作品集			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	作品のセレクトからレイアウトまで、実際の編集作業を体験しながら作成し、1冊の作品集としてまとめます。			
評価方法	作品内容、編集作業			
備考	最終入稿は2～3月頃。完成受取は8～9月頃の予定です。カラー作品はカラー頁、モノクロ作品はモノクロ頁に掲載され、学科や名前順の記載となります。			

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進路・就職ガイダンス		
開講期	前後期	単位数	※
講師名	—		
授業概要	卒業後を見据えて1年次から実施します。業界の将来性や動向を含めて就職環境を学び、目標とする企業の内定を目指します。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		

2025

区分

選択

対象

全学年

科目名	進級・卒業オリエンテーション		
開講期	随時	単位数	※
講師名	—		
授業概要	学期の始めに開催される始業説明会や進級オリエンテーションなど、学習プランの組み立てから個別相談まで含めて指導し、卒業までのスムーズな学習環境を整えます。		
評価方法	出席		
備考	テキスト、配布資料あり		

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真技能検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	厚生労働省認可の国家検定を在学中に取得することを目指します。初級は3級から、合格すると「写真技能士」の称号を得ます。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	DTP関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	DTPに関わる者に必要と思われる各種アプリケーションソフトの検定やそれに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	写真関連資格検定			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	写真業界に関わる者に必要と思われる諸分野の検定や、それに準じた資格などを単位として認定します。			
評価方法	取得証明書の提出			
備考				

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外写真展認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	前後期			
授業概要	審査制度を設けたギャラリーでの写真展や、オリジナリティあふれる個展などに対して、単位として認定する制度です。			
評価方法	作品内容、企画・運営			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	学外公募展（学校指定）入選・受賞認定制度			
開講期	前後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	本校の指定する公募展に応募、審査を通過して入選や受賞した場合、「学外写真展認定制度」と併せて単位として認定します。			
評価方法	作品・受賞			
備考	本校指定の報告書を提出			

2025	区分	選択	対象	全学年
科目名	インターン制度			
開講期	後期	単位数	※	
講師名	—			
授業概要	学生が一定期間、写真業界などの企業の中でアシスタントとして働き、就業体験を行い、これを単位認定します。ただし、当校がインターン先として認定した企業に限ります。			
評価方法	出席、インターン制度採用企業の評価			
備考	本校指定の勤務報告書を提出			